

そよ風

- 1 守る会と東大和療育センター
- 2 東大和フェスタ
- 3 フェスタウィーク
- 4 制作展・永年勤続表彰・人事異動

守る会と東大和療育センター

社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会 副理事長 茶園 光彦

日頃より東大和療育センターの運営にご苦労されている皆さんに感謝いたします。

さて、「全国重症心身障害児(者)を守る会」は二つの顔を有しています。ひとつは重症児者の親たちが「この子を助けてください」と社会に対して訴えてきた任意団体としての親の会の顔、もうひとつは東大和療育センターのような重症児者のお世話をする事業所を運営するために設立した社会福祉法人の顔です。

上記二つの顔(団体)はまったく同一名称なので、多くの人が両者を同じものだと誤解していました。多くの人が守る会が二つの団体から成り立っていることを知らなかったのです。

私は上記のうちの社会福祉法人の業務執行を行う副理事長です。私はかねてから親の会と社会福祉法人は一種の利益相反関係にあると言い続けてきています。親から見れば例えば施設の医師、看護師などの職員は多ければ多いほど望ましい。建物、設備は立派であればあるほど望ましい。しかしながら社会福祉法人から見れば、親の希望に無制限に応えていけば、収支損益が、経営が成り立たないのです。すなわち両者は利益相反関係にあるのです。

ご承知のように東大和療育センターは東京都立です。社会福祉法人は地方自治法にいう指定管理者制度によって東京都から運営を任されています。そして職員の皆さんは社会福祉法人と雇用契約を締結しているのです。社会福祉法人は東京都が都議会の議決を経て下さる指定管理料で給与など経費を支払いながら施設を運営しています。原資は都民の皆さんが納める税金です。私たちは心して経費を節約して税金の無駄遣いにならないよう努めなければなりません。

今後、私は皆さんの耳に痛いことを言うことが多々あるかもしれませんが、どうぞご寛恕の上で、じっくりと協議させてください。よろしくお願いいたします。



2024年度 東大和フェスタを終えて



第1病棟 生活支援科主査 田中 輝昭

2024年10月12日(土)「今、この時を楽しもう!」をテーマに今年度の東大和フェスタが開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2023年5月から「5類」へ移行し、国内の感染対策も徐々に緩和されていきました。当センターでも行事に対する感染対策に変化がみられ、実施規模は昨年と同様ですが、今年度はご家族の参加が可能となりました。なんと4年振りの出来事となります。

「今、この時を楽しもう!」をテーマに日常から少し離れた現実を体験してもらおうと5つのアトラクションを準備致しました。それでは一つひとつ紹介していきたいと思います。各病棟エリアでは「バイオリンコンサート」と題して国立音楽大学学生ボランティアによるバイオリンの演奏を各病棟へ回っていただき、素晴らしいバイオリンの音色を受けました。エントランスエリアでは、楽器のワークショップとして「やまと工房」が設置され、家族や職員と協力してマラカスやスティックバルーンなどの楽器作りを楽しみました。今話題のロサンゼルスドジャースワールドの中、楽器の作り方を大谷翔平とロバーツ監督がわかりやすくVTRで説明していました。

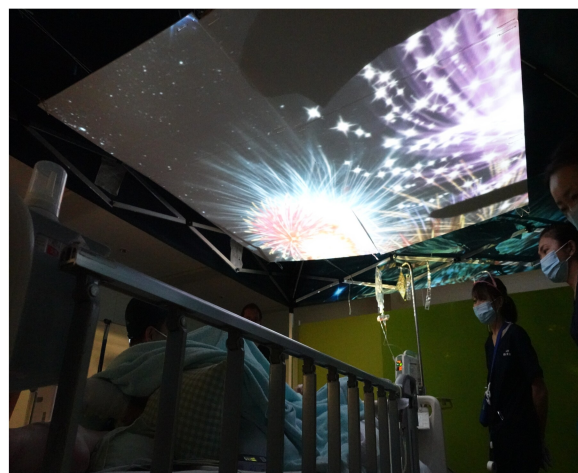


エントランスエリアもう一方では「ゲームエリア」として魚釣りゲームとボーリングができると、とにかく盛り上がっていました。魚が釣れた時の引きや感覚に思わず笑顔が見られ、ボーリングではピンが倒れると嬉しそうに喜ぶ様子が多くみられていました。

プレイルームでは、「オミビスタ」を使用するプロジェクターアトラクションを体験しました。目の前にある映像に触って操作し、音や光の変化を楽しみました。触ると花火がポツと映し出されリアルな音も雰囲気を出していました。プール前エリアでは、「写真館」のコーナーを設置しました。入り口でゲームを行い、ブースで写真撮影を行うといった内容です。ブースは「ドラえもん」のキャラクターや森や海辺の風景などがあり、それぞれ気分を味わいながら撮影会が行われていました。もちろん親子写真も多く撮られていました。



ここ数年は、感染対策管理により、以前に比べると規模が縮小されていますが、今回は久しぶりの家族一緒での開催となり、親子共々のイベントの参加に楽しそうな様子が多く見られていました。コロナ禍が去って、以前のような行事の雰囲気を少し実感することができました。来年度もまた、非日常的な時間を届けられるよう、皆が少しでも楽しめるような行事となるよう、センター全体で取り組んでいきたいと思っています。





秋と言えば、『通所フェスタウィーク』

通所係 指導員 関根努



秋になると「〇〇の秋」というように、いろいろな事を体験し楽しめる良い季節です。そんな絶好の季節に合わせて、通所では2024年10月21日(月)～10月25日(金)の5日間、毎年恒例『通所フェスタウィーク』が開催されました。フェスタウィークと言うように開催期間は一週間のため、東大和フェスタで行われたアトラクションゲームを体験したり、通所フェスタだけの催し物を鑑賞したりと、各曜日毎に様々なプログラムを企画しました。どんな様子だったのかこの文章を読まれている皆さんにそっとお伝えしたいと思います。

まず、通所入口を抜けると、バルーンやハロウインの壁面装飾で皆さんをお出迎え。そのままデイルーム奥に設置された写真ブースへと移動し、ドラえもんやちびまる子ちゃんと一緒にパシャリと記念撮影。利用者様のベストショットを写真にし、各々が自由にデコレートしたフォトフレームに貼って、通所フェスタの記念品として差し上げました。

アトラクションゲームは2種類。1つめは水の中をスイスイ泳ぐ魚のおもちゃを釣り上げるフィッシングゲーム。竿で釣り上げた瞬間、ブルブルと動く魚の振動に少し驚く利用者様もありました。そしてもう1つのゲームはボーリング。ピンを多く倒したら勝ちというルールに加え、大・中・小と大きさの異なるボールを選んで転がすという、通所フェスタ独自ルールを取り入れました。大きいボールが必ずしもピンを沢山倒せる訳ではありませんでしたが、それでも豪快にピンを倒すと通所内は大いに盛り上がりました。



さて、通所フェスタだけの催し物として、マジックショーとハーブ演奏会がありました。マジックショーでは、職員扮するMrトリックがBGMとともに登場。コップの中身が変わるマジック、新聞紙に注いだ水が消えるマジック等、様々なマジックでMrトリックが利用者様を摩訶不思議な世界へと誘いました(たぶん…)。そしてハーブ演奏会では秋にちなんだ童謡やジブリ作品の曲など、ハーブの美しい音色に利用者、職員ともウツトリと聴き入ってしまいました。演奏会の最後はピアノ演奏によるドレミの歌。全員で

楽器を持って曲に合わせて演奏する様子は、まるで大オーケストラ。とても和やかな時間を過ごしました。

まだまだお伝えしたいことはありますが、このフェスタウィークが利用者の皆様にとって思い出の1ページとなっていたらとても嬉しいです。



今年の制作展

リハビリテーション科 心理指導員 宮武薫



今年も制作展の時期がやってきました。第一回の制作展は、おもちゃ図書館がまだ開業する前の空き部屋を利用して行ないました。開場時間を設定して、入所者の方と受付をしたのを思い出します。今年も東大和フェスタの日(10月12日土曜日)から開幕しました。ちょっと会場を歩いてみましょう。正面玄関から入ると、正面のテーブルにはおいしそうなパフェやハンバーグが並んでいます(観ているとお腹が空きます)。横には紙粘土で作った色々なテーマの作品があって楽しいです。そして上を見るとスモールワールドのステキな世界や、布を組み合わせて作ったおしゃれな作品が並んでいます。カラフルな絞り染めは風に揺れて美しいですね。待合いにある枕草子をテーマにした和の世界は、落ち着きのある雰囲気を演出しています。

廊下を進むとテーブルの上には立体的に作った作品が額に入って並んでいます。横にはポップな人物画の作品もありウキウキした気分になります。窓には、各病棟ごとに“五味太郎のらくがき絵本”の作品があり楽しいです。以前、友人がセンターの建物の外観が美術館みたいだと言われたことがあります。まさに今は美術館ですね。どうぞ皆さんの作品に浸ってください。



永年勤続表彰

公益社団法人日本重症心身障害福祉協会

永年勤続者表彰 院内表彰伝達式

今年度、当センターにおいては8名の職員が表彰されました。(看護部7名、栄養科1名)



編集後記

外に出るのも嫌になるような酷暑も落ち着き、やっと秋らしい気候になってきました。もうあつという間に冬になりそうですが、この短い秋の中でできそうなことを考えてみるのもよいかなと思っています。最近心機一転で、部屋の模様替えをしました。少し変えるだけでも結構新鮮な気持ちになり、気分転換にもなりました。季節が進み、少し涼しくなって身体を動かしやすくなりました。ジムに行ったり、様々な所にでかけたりと、この秋はアクティブな生活をしてみようと思います!(S.K)



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風 第114号

編集
発行日
発行

院内報そよ風編集委員会
令和6年11月15日
東京都立東大和療育センター
東京都東大和市桜が丘3-44-10
Tel 042-567-0222